

輸出事業計画

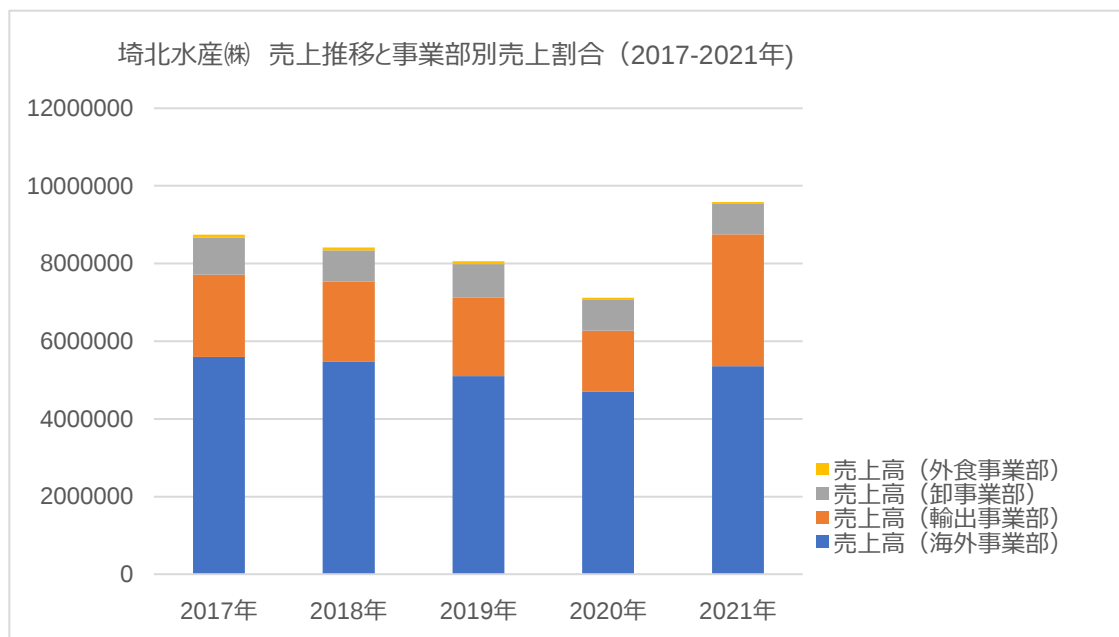
※申請者名：埼北水産(株)、

品目：サーモン(生鮮)、養殖ハマチ(生鮮・冷凍)、その他(鮮魚、冷凍水産物等)

1. 輸出における現状と課題 (1/2)

弊社では1998年に貿易事業を開始し、サーモンの輸入をメインの業務としながら水産食品の輸出を開始しました。2014年には輸出事業部を設立し、売上を順調に伸ばし続け、2021年度には33億円の売上に到達しました。これは弊社の全体売上の40%に相当します。

図表1



売り先は米国、台湾、シンガポール、タイ、香港、ドバイ、ニュージーランド、EUなど多岐に渡ります。扱い商品は生鮮養殖ハマチをメインとした生鮮魚介などを航空便で、冷凍水産原料を海上コンテナで出荷しております。コロナ禍では輸送便の減少及び価格高騰などがありましたが、顧客の需要は落ち込むことなく寧ろ新規顧客を獲得する機会に恵まれました。

弊社の売上の約80%を占める米国は養殖ハマチの最大の輸出国であり消費国でもあるため、需要は事欠きません。LAやNYが主力販売先で、主に和食レストラン、スーパーマーケットが末端販売先です。東南アジア諸国でも日本食はかなり浸透しており、末端販売先も概ね同様です。

直近(2023年3月期)の輸出取り扱い品目と国別の割合、金額は図表2の通りです。

1. 輸出における現状と課題（2/2）

図表2

2023年実績

単位（千円）

輸出先国	養殖ハマチ（生鮮・冷凍）	その他の鮮魚・冷凍水産物等	総計	割合
米国	1,730,486	1,096,149	2,826,635	81.5%
東南アジア諸国	104,958	489,102	594,060	17.1%
オセアニア	0	12,806	12,806	0.4%
カナダ	670	11,276	11,946	0.3%
EU	9,180	0	9,180	0.3%
中東	8,262	3,562	11,824	0.3%
TOTAL	1,853,556	1,612,895	3,466,451	100.0%

現状の課題について米国の場合は、①食品衛生管理上の規制が厳格化してきており、提案できる商品が限られる。②売上が養殖ハマチ頼みで、ハマチの状況で売上が左右される。③鮮魚便（航空便）で養殖ハマチ以外に重量を負担できる商材が無い。（出荷コストがかかり粗利率が落ちる）④バイヤーの社内コンプライアンスとしての食品安全認証システムのレベルが高い。（HACCP認証等） などです。

東南アジア諸国では、①主軸である天然魚の日本での漁獲量が減少もしくは、天候などの自然条件で出荷が大きく左右される。②一部放射能による出荷規制があり、出荷出来ない産地のものがある。③バイヤーの社内コンプライアンスとして食品安全認証システムに対するレベルが高いというものです。

各国で比較的共通するのは高度な食品安全認証システムの要求と、鮮魚便における養殖ハマチ以外のメイン商材が無いこと及び規制の問題です。

弊社では基軸商材としてのもう一柱の商品を「国内完全陸上養殖サーモン」に設定し、メイン商材とすべく食品安全認証システム及び規制をクリアして出荷することとしました。理由は弊社は国内卸としては日本に流通している生鮮サーモンについて業界3位を占める扱いをしており、仕入れ及び加工に関するノウハウを持っているためです。規制に関してはJETRO及びGFP発信のセミナーでの情報収集や現地の協力により都度対応してクリアしていきます。

2. 輸出事業計画の取組内容（1/4）

商材：国内完全養殖サーモンフィレ

ターゲット国：米国、東南アジア諸国（香港、台湾、シンガポール、タイ）

顧客の要求レベル：FSSC22000相当の食品安全システム認証のある工場生産された商品

弊社はもともとノルウェーから養殖アトランティックサーモンを国内シェア30%の割合で輸入しております。近年国内各地でも完全陸上養殖サーモンを生産する計画をノルウェー資本のP社を始め、大手財閥系商社等その他続々と行い始めております。2024年以降に稼働し始めるこれら施設から生産されるサーモンは国内需要を超える生産量となる見込みです。この国産の完全陸上養殖サーモンを輸出で出荷できれば安定供給可能な次代の主力商品に出来るのではと考えました。

また、「バイヤーの食品安全認証システムのレベルが高い（HACCP認証等）」に関しては、各国で同様の傾向が見られ、国際認証のFSSC22000を要求されるケースが増えてきており、これに対応する必要があります。

更に国を問わず近年人件費高騰による加工賃の負担、末端での販売現場やレストランにおける人材不足は非常に深刻であり、これを弊社が加工することにより解消することで商品の差別化をはかります。

具体的には下処理なしで店頭販売が可能、もしくは調理可能な状態での販売を目指します。

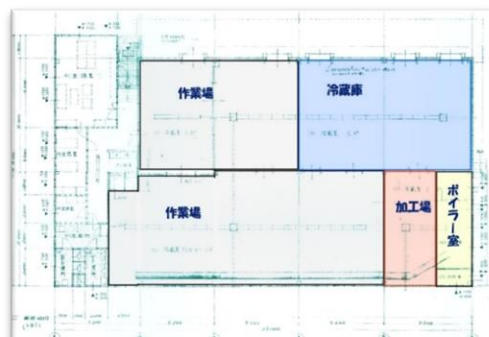


頭、内臓、皮、骨（ピンボーン等）を処理した状態であれば顧客側での加工の手間、技術等が不要であり、鮮度の良い状態での調理、販売が可能

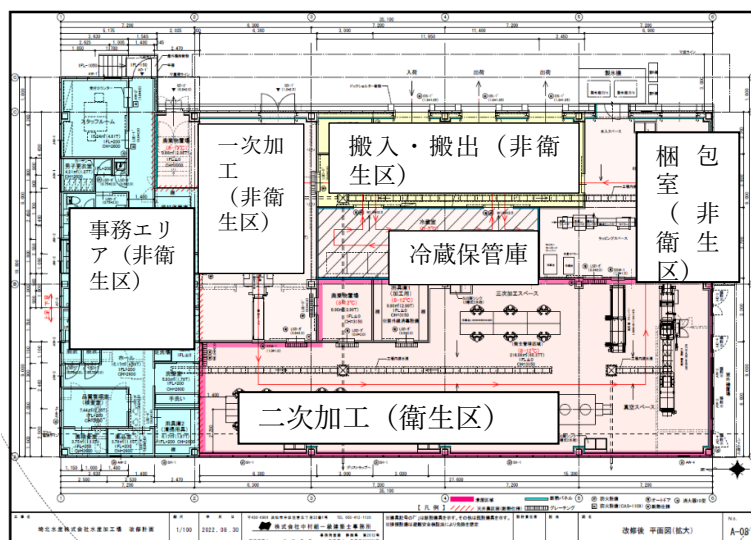
2. 輸出事業計画の取組内容（2/4）

弊社は、前述の輸出先国規制に関する条件をクリアする出荷方法について、他社加工場や市場の仲卸の活用なども検討しましたが、最終的に、新たに生鮮加工事業部を設立し、会社として加工場を作ることになりました。加工場は、熊谷本社に隣接していて現在使用されていない旧DCセンターを改装することとしました。

＜埼玉県熊谷本社敷地内施設：築36年＞



施設要件を
FSSC22000規格へ改装



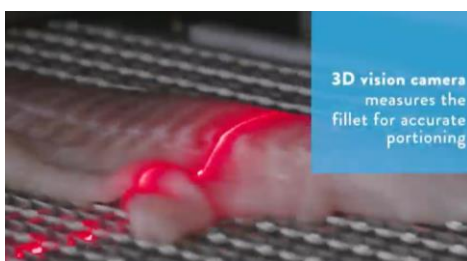
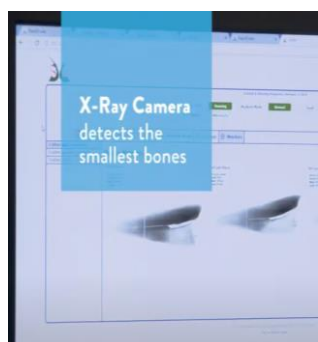
今回、顧客の要求する高度な食品安全認証システムであるFSSC22000の認証取得を目指し、令和4年度（補正予算）HACCPハード事業等を利用してDCセンターを水産加工場に改装します。売上の約80%を占め、メインターゲットである米国に出荷するにはFDAの定める水産物HACCP基準（適正製造基準）及び米国食品安全強化法（FSMA）で定める「ヒト向け食品に関する予防管理」にある要求事項に適合しなくてはなりません。そのためには現時点で一番厳格な食品安全認証システムであるFSSC22000の取得が必要です。

2. 輸出事業計画の取組内容（3/4）

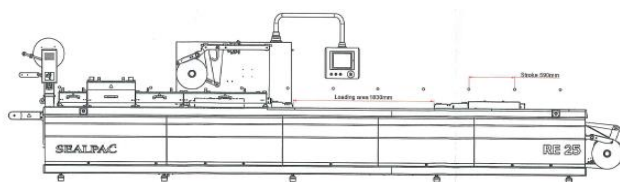
更に加工において実績の無い弊社において技術力をカバーできる加工製造ラインを作る必要があります。作業者の技術に頼らない自動化された製造ラインを作る為に日本に未導入の最先端のカットマシンの導入を予定します。陳列時の見映えの良い深絞り真空機、商品情報を確実に伝達するラベルシステム、異物混入を防止する金属探知機なども最適な製造ラインを作れるものを導入します。

（いずれも食品安全認証システムの取得を想定した機器の選定を行っています。）

X線と3Dカメラで原料をAIがチェックしてカット



立体的で見映えが良く雑菌の接触を防ぐ深絞り真空パック



金探による異物混入防止

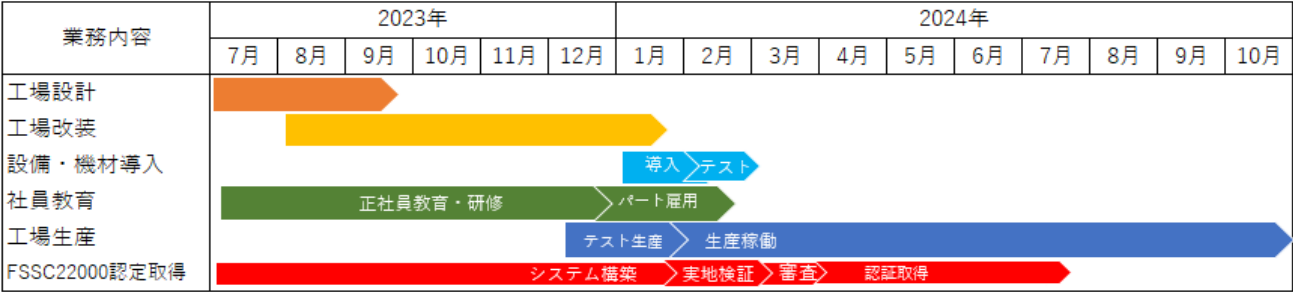


正しいラベル表示

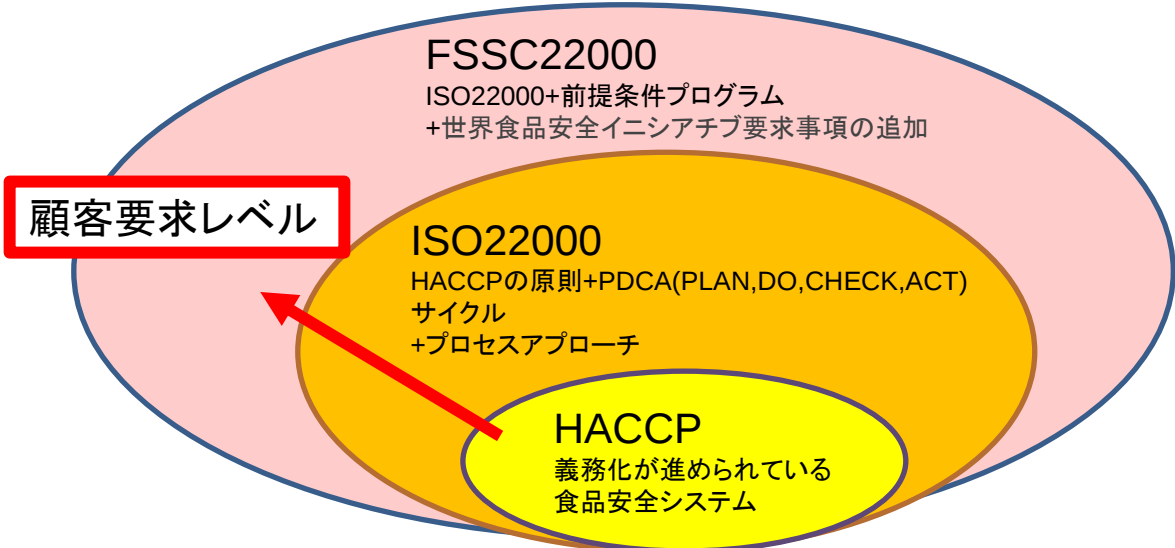
2. 輸出事業計画の取組内容（4/4）

また、従来から加工製品の取扱いのある取引先と連携して、かかる製造ノウハウの導入や必要スタッフの採用・育成などは進めており、作業員の技術に頼らない自動製造ラインの導入も含め製造上の問題は特にありません。

工場の改装、FSSC22000認証スケジュール、工場従事者の採用スケジュールは以下の通りです。加工事業部の主要スタッフは新規採用するとともに、食品安全衛生に関する関係者への研修などを実施する予定です。

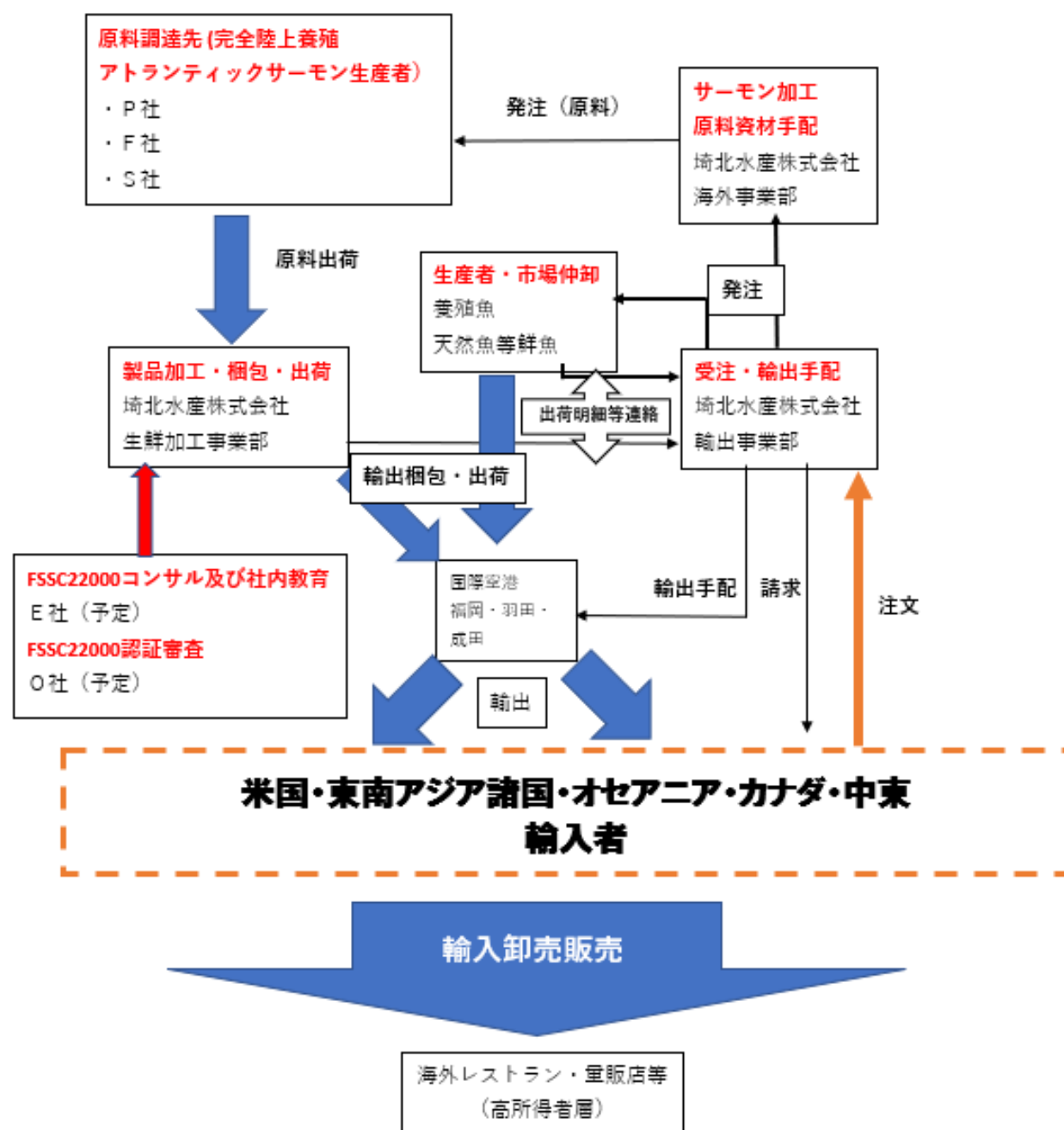


< 食品安全認証システムのレベル >



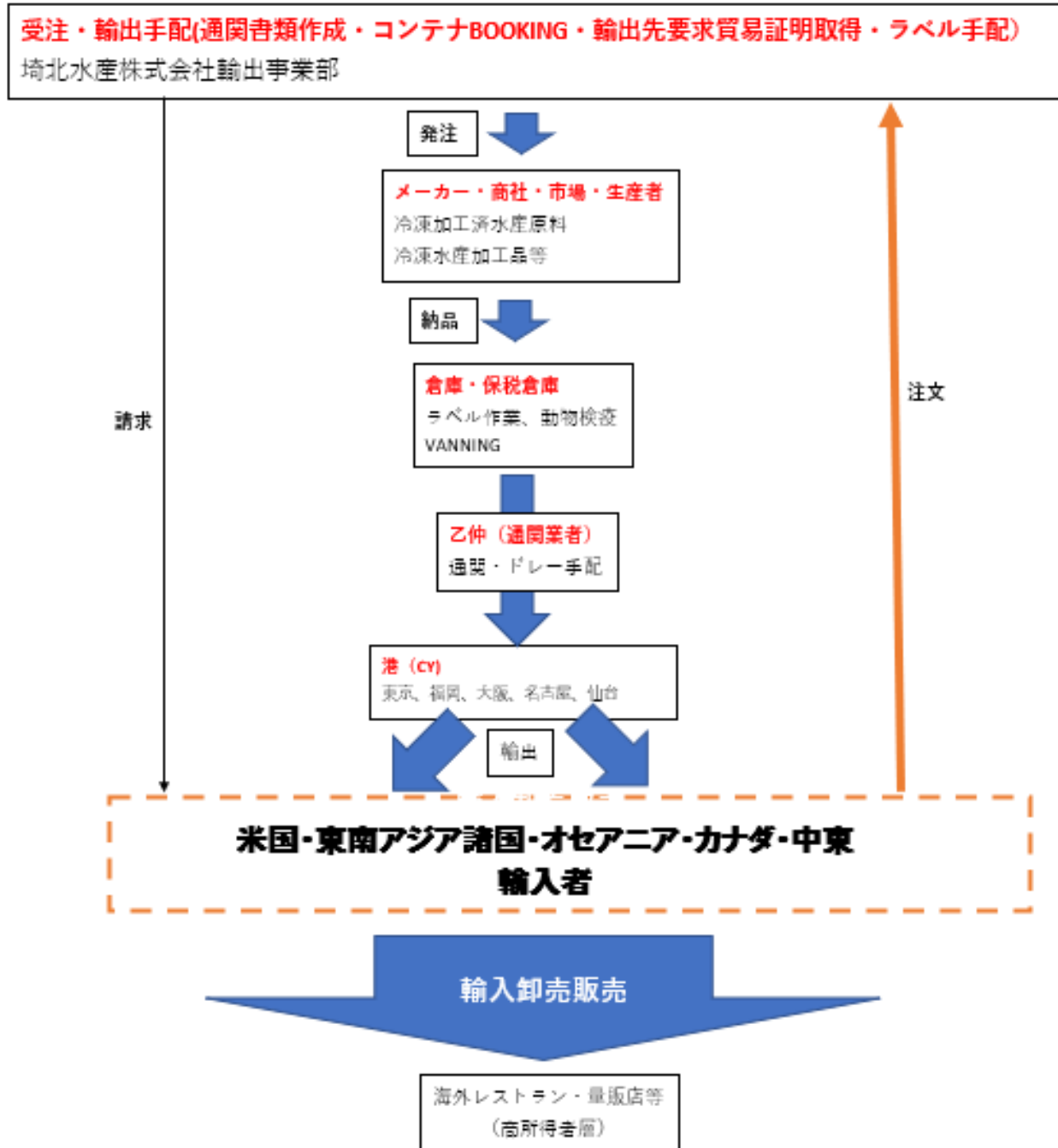
3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

実施体制（航空便の場合）



3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

実施体制（船便の場合）



4. 輸出目標額（1/2）

輸出目標額は以下予定しています。

サーモン（生鮮）		実績			5年度目（目標年度）		
		（2023年3月期）			（2029年3月期）		
地域	輸送手段	輸出額(千円)	輸出数量(t)	取扱量(t)	輸出額(千円)	輸出数量(t)	取扱量(t)
米国	航空便	0	0	0	160,000	40	40
東南アジア諸国	航空便	0	0	0	50,752	12	12
TOTAL		0	0	0	210,752	52	52

養殖ハマチ（生鮮・冷凍）		実績			5年度目（目標年度）		
		（2023年3月期）			（2029年3月期）		
地域	輸送手段	輸出額(千円)	輸出数量(t)	取扱量(t)	輸出額(千円)	輸出数量(t)	取扱量(t)
米国	航空便	297,765	69	69	355,931	79	79
	コンテナ	1,432,721	435	435	1,626,659	505	505
東南アジア諸国	航空便	39,780	15	15	43,737	17	17
	コンテナ	65,178	28	28	73,379	29	29
オセアニア	コンテナ	0	0	0	32,224	8	8
カナダ	航空便	670	1	1	737	1	1
EU	航空便	9,180	2	2	10,093	2	2
	コンテナ	0	0	0	12,800	13	13
中東	航空便	8,262	3	3	9,084	2	2
TOTAL		1,853,556	553	553	2,164,644	656	656

4. 輸出目標額（2/2）

※輸出先国と輸出する農林水産物・食品の現状及び目標金額を記載すること

その他の鮮魚・冷凍水産物等		実績			5年度目（目標年度）		
		（2023年3月期）			（2029年3月期）		
地域	輸送手段	輸出額(千円)	輸出数量(t)	取扱量(t)	輸出額(千円)	輸出数量(t)	取扱量(t)
米国	航空便	195,175	58	58	233,677	64	64
	コンテナ	900,974	448	448	990,602	493	493
東南アジア諸国	航空便	462,480	628	628	521,122	728	728
	コンテナ	26,622	9	9	29,270	9	9
オセアニア	コンテナ	12,806	33	33	14,081	34	34
カナダ	航空便	11,276	3	3	25,844	3	3
中東	航空便	3,562	2	2	3,916	2	2
国内				3,050			3,355
TOTAL		1,612,895	1,181	4,231	1,818,512	1,333	4,688